

# 広報柏谷



7月7日(土)、今年も八坂神社祭典(お天王さん)の最後を飾る区内御神輿渡御が、盛大に行われました。

八坂神社の境内にお祀りしている八坂神社のご祭神であるスサノヲノミコトを遷(うつ)した神輿が大勢の担ぎ手達により、雄雄しく、時に荒々しく、激しい練りと共に区内を巡りました。このお祭りが「お天王さん」と呼ばれているのは、ご祭神のスサノヲノミコトが牛頭天王(ごずてんのう)と同じ神と見られるようになったからです。それは、どちらの神も疫病を流行らせる神とされてきたため、この神を慰め和ませて災厄を防ぐために祭りが行われてきました。(泉明寺宮司のコラムより引用)

## 八坂神社祭典 (お天王さん)



仁科のぶさんを囲んでの記念撮影



今年も子供たちの元気な声が響いた子供相撲



## 白雲庵30年中祭(御開帳)

7月23日(月)白雲庵30年中祭の法要が、戸外で子供相撲の歓声が響く中、公民館1階の和室で行われました。今年の中祭ということ、30年振りに石仏の納められた厨子が御開帳されました。

また、毎月23日のお念仏や毎年7月の法要に、永年にわたって携わり尽力されてきた仁科のぶさん(4組)に、区長から感謝状の贈呈がありました。

## 瑞穂のくにのものがたり

日枝神社宮司 泉明寺みずほ

遠い夏。小学校低学年の休暇を共に過ごした年下の従兄弟から別れ際に贈り物もらった。家まで開けてはいけないうよ、と注意付きで。

新幹線の道中、楽しかった思い出を繰り返し懐かしみ、不意のプレゼントに名残を感じながら帰路に着いた事を覚えている。期待に胸を弾ませ蓋を開けた、その中身は・・・ぎゅっ詰まった、セミの抜けガラ・・・

ツマミにもならない、大量の乾き物は即刻土に返されたのである。

さて、あれも夏の盛りの頃だったと思う。畑仕事をする祖父のそばで戯れていた私は、草いきれの香りと共に柔らかな土の中から何かの一片を掘り出した。

学校で大切に育てているアサガオの植木鉢を思わせるそれは、悠久の時を超えて私の手のひらで目覚めた「縄文土器」と呼ばれる古代の容れ物のカケラであった。なぜ、私の家の庭からこのようなものが出土したかという、古代よりこの地には集落があったからに他ならない。ぐっと時代は下り、古墳時代のものであるが、集落を持った人々の墓である「横穴群」もごく近い場所に位置している。私たちの住むエリア柏谷は、ムラを作り、思想を持つ



た祖先から伝えられし場所なのである。出土品の中には縄文時代のもものと判断しながら、未だ何に使ったのかがわかっていないものもあるという。例えば土偶。石刀、石棒。恐らく祭祀の用具であろう、という事だ。

縄文人はこのムラにおいて祭場を創り、祈りを捧げていた。何への祈りか? それは生きるために必要である自然の恵みに対してであろう。太陽に、雨に、木々に、実りに。人智の及ばぬ、暮らしの糧の全てををもたらす自然を畏敬し、「死」の概念を持ち、祈りを捧げて暮らしていたのであろう。土偶や石刀は依り代(神霊が依り憑くもの)か? 生贄か? 象徴か?

ところで、縄文の土偶は(私にとって)親近感湧くスタイルをしている。(しかも困ったことに近年ますます近似性が増したような気がする。)出土する人型のうち、性別が判断できるものの殆どが女性なのだそうだが、他国から出土される土偶の多くも地母神(母なる神)を表していて、多産、肥沃、豊穰をもたらすとされる。やはりたっぷりした腰回り、たわわな乳房。スタイルはふくよかである。

さて、神社の神事においては、神籬(ヒモロギ)と呼ぶ依り代に神様を招く。そして、米、酒、塩、果物、野菜、魚などを献上。八百万の神たちと自然の恵みに感謝し、祝詞を奏上する。国の安寧と、五穀の豊穰を願って。

私たち日本人の祈りは縄文時代より、綿々と受け継ぎ受け渡して来たもの。静謐でありながらも、一万年をゆうに超えて各時代を貫き通すほどの力強さを持つ。カタチあるものは壊れても、想いは世代を超えて緩やかに繋がっているのである。



### 消防団第六分団 団員募集!

消防団第六分団 団員募集!

団員の募集にご協力をお願いします。

「広報柏谷」では、皆さんの「ご意見、ご要望」のほかに、昔の写真、自慢のペットなども募集しています。

詳しくは、お近くの役員、又は、公民館の投稿ボックスまで・・・

## 柏谷のわんこ

～柏谷のかわいいわんこを紹介します～

名前: ヤマト  
犬種: ビーグル  
性別: 男の子  
年齢: 8歳  
住んでるところ: 5組の後藤さんの家

性格: 人のそばにすることが好きで、甘え上手。人懐こく、ベンチに座ると隣に座り動かない。散歩: 朝と夕に、東中付近の田んぼ道を散歩する。家に来た経緯: 動物保護団体から譲り受ける。特技: 何もできない。その他: 散歩の途中、畑のゴーヤを食べていた。

### 編集後記

「広報柏谷」第6号では、新企画として、「あの頃の柏谷」と「柏谷のわんこ」をスタートさせました。「あの頃の柏谷」は、昔の柏谷を知りたい人には懐かしんだり思い出したりして貰おうと企画しました。「柏谷のわんこ」は、歩いていてよく見かけるわんこ達の名前が分かって少し楽しいかな、と思いついて作ってみました。道や公園で散歩中の「わんこ」を見つけたら、名前を呼んであげてください。

広報柏谷では、皆さんのご意見やご要望をお待ちしています。また、広報柏谷を利用して情報発信しだいたいという方も、お気軽にご相談ください。これからも、広報柏谷をよろしくお願いします。